

はじめに

このたび、平成 29 年度の業務内容および調査研究の成果を、「福井県衛生環境研究センター年報（第 16 巻）」としてとりまとめました。

当センターは、本県の保健行政や環境行政を科学的・技術的に支える中核機関として、衛生・環境に係る「調査研究」、「試験・検査・測定」、「研修・指導・学習」、および「情報の収集・解析・提供」の 4 つの役割を軸に業務を推進しています。

また、「福井県公設試験研究機関評価等評価ガイドライン」に基づいて外部評価委員による機関評価を受けており、その評価結果および各意見を業務の推進に活かしています。

調査研究においては、呼吸器ウイルスの流行状況の研究により、ウイルスの検出・検査手技の確立ができ、県内における呼吸器感染症の原因となる呼吸器ウイルスの動向把握や、サーベイランス機能の充実につながる研究となりました。今後も県内における動向の把握を行っていくこととしています。

また、全国から見た福井県の酸性雨の特徴とその要因解析の研究により、福井県の降雨の酸性度が全国でも高い要因として、季節風による大陸由来の移流物質による影響が広範囲に及んでいることや、移流物質発生源の種類と寄与率の推定、大陸からの移流と風向きの関係も解析できました。今後は県民への周知や意識向上につなげていくこととしています。

今後とも、県民の健康と生活環境を守るための試験および調査研究機関ならびに健康危機管理対応機関として、関係機関と緊密な連携を図り、県民および行政の新たなニーズにも可能な限りの的確に応えていく所存です。

本年報の「Ⅱ 業務報告」では、部・室ごとに平成 29 年度の業務実績を掲載し、また、「Ⅲ 調査研究」および「Ⅳ 発表抄録」では、これまでに実施した調査研究の結果ならびに学会等での発表の抄録等を掲載しています。

こうした成果については、ホームページや広報誌などを通じて分かりやすく情報発信するとともに、一般県民や小中学生向けの衛生・環境教室等を積極的に開催し、当センターの業務に対する認識と理解を深めていただけるように努めてまいりますので、引き続き御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。

平成 30 年 12 月

福井県衛生環境研究センター所長 文室 文平